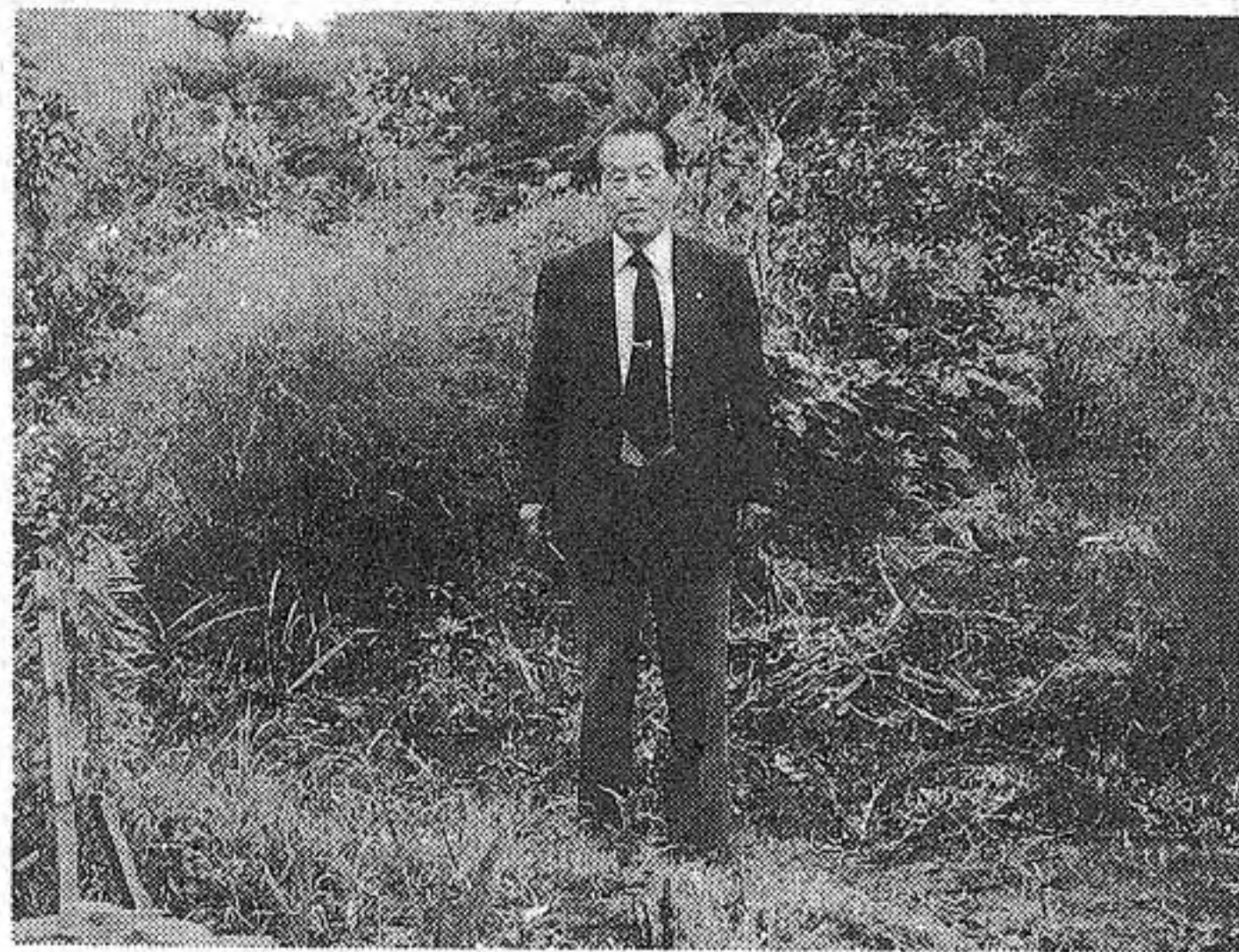


# ふるさと探訪



[15]

豊里西地区のシンボル、小畑町にまたがる。このう  
空山。すそ野は鍛冶屋町と ち鍛冶屋町に三坂峠があ



金のニワトリが埋まっていると推測する鳥ヶ岡の丘陵地の場所に立つ山下盛夫さん(鍛冶屋町で)

り、空山を越えたと福知山さんの生家は三坂峠のふも一蔵という人が発掘に挑ん  
市の報恩寺(ほうじ)に通との最寄り。山下さんは父だ。榎の太木はどこにもな  
じる。そのふもとに金で作親(故人)から古文書のことかたらしいが、地図を頼  
られたニワトリが埋まるととを聞いた。それによるとと自宅から約五十坪離れ  
伝えられている。

大正時代、近所に住む山下 藤治さん(65)宅の本家でこを掘った。  
ニワトリのことを記した古 金のニワトリのことを書い しかし、いくら掘っても

## 「金のニワトリ」埋蔵!

鍛冶屋町  
三坂峠

その丘から  
宝は見つか  
らず、大正末期

## ロマン誘う黄金伝説

大正時代に  
古文書発見 発掘に挑んだ人も

文書があり、その場所を た巻物が見つかった。

掘った人もいるとか。もし 巻物には「峠の入り口に

夢物語が本当なら、掘り当 榎(えのき)の太木が生え  
てれば莫(ばく)大な金銭 た丘があり、その木の下に  
価値があるかもしれない。 金のニワトリが埋まる」

この伝説を知る一人が鍛 と、地図入りで書かれてい  
治屋町出身の山下盛夫さん たらしい。

(71) 三宮代町IIだ。山下 当時の本家の主人、山下

はなく、十五年ほど前に藤 治さんの父親(故人)が知  
人の神主に貸したそう。その神主も既に他界してお  
り、巻物の所在は現在わか  
らない。これで宝の話は消  
滅した感じだった。

## 「この丘こそ金 のニワトリが」

ところが、十年ほど前、  
盛夫さんが地元の古老(故  
人)から、峠の入り口には  
もう一つ丘があることを聞  
いた。三宮古墳や寺内池が  
ある辺りで、今は畑地。

そこは地名が「鳥ヶ岡」  
(とりよおか)といい、ニ  
ワトリと関連する。栗の木  
が植えてあるので「榎の大  
木」とも樹木ということ  
は共通する。盛夫さんは  
「この丘こそ金のニワトリ  
が眠る丘」と推測する。

実際に足を運んでみる  
と、一帯は茶園や民家の倉  
庫が建つが、ほぼ雑草に覆  
われた荒れ地。金の埋蔵物  
が眠っている要地とは思え  
なかった。

だが、三坂峠は昔、小畑  
村と福知山を結ぶ「シルク  
ロード」と呼ばれ、人々の  
往来が盛んだった。そんな  
往時を想像すると宝にまつ  
わる秘話の一つ残っていて  
もおかしくはない。

盛夫さんは語る。「(金  
のニワトリが)本当にある  
かどうかは知れないが、ロ  
マンを感じる」。時間があ  
れば掘ってみたいという  
が、「代わりに掘って見つ  
けられた方があれば、情報  
料としてニワトリの蹴爪  
(けづめ)を一本ほどいた  
だければ幸い」と夢を見続  
ける。

(高橋)